



DISCLOSURE

2024

アニコム損害保険の現状

どうぶつの未来のために



日頃より、アニコム損害保険をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

当社の経営方針・事業概況・財務状況などについて皆さまにご理解いただきたく、
「アニコム損害保険の現状 2024」を発行いたしました。

本誌が、当社をご理解いただく一助として、皆さまのお役に立てれば幸いに存じます。

※本誌は「保険業法第111条」および「同施行規則第59条の2及び第59条の3」に基づいて作成したディスクロージャー誌
(保険会社に係る業務及び財産の状況に関する説明書類)です。

アニコムグループ理念体系

グループ理念体系は、経営の最上位概念であり、「パーパス（存在意義）、ビジョン（経営理念）、ミッション（企業使命）、クレド（行動指針）」から構成されています。

グループ理念体系や理念のもと、中期経営計画をはじめとした経営戦略を実行し、
経済的価値と社会的価値の創造を実現してまいります。

パーパス（存在意義）

世界中に「無償の愛」を伝え、
平和を取り戻し、維持発展させる。

ビジョン（経営理念）

ani + communication = ∞
(命) (相互理解) (無限大)

アニコムグループは、
それぞれの命が持つ個性の違いを互いに尊重しあい、
分業協力することで、世界中に「ありがとう」を拡大します。

ミッション（企業使命）

- ①戦争抑止、平和の回復・維持発展に資する
行動をペット業界として行う使命
- ②社会発展とペット業界発展が同調した
サステナブルな業界へ変革させる使命
- ③高齢者・障がい者・子ども・社会を
サポートする使命

クレド（行動指針）

1. オープン志向

オープンで、「対話のできる法人」を目指します。組織が大きくなっても、お客様やステークホルダーの皆様の声が、法人のすみずみまで届くよう努力し、お客様やステークホルダーの皆様から「見える」「話せる」と実感していただける「対話のできる法人グループ」を目指します。

2. マーケットアウト志向

常にお客様の視点に立って、新しい価値の創造に努めます。常にお客様の視点に立ち、お客様の求めるサービスを創り出す、マーケットアウト(お客様の真のニーズにお応えすること)を意識した経営を徹底し、お客様の願いを実現するとともに、新しい価値を創造することに努めます。

3. ロールプレイング志向

個々に与えられた役割(ロール)を最高に演じる(プレイング)ことで、個人と組織の飛躍的成長を促進します。
個々と組織の役割を明確にし、その役割を役者のごとく最高に演じることで、何事にも果敢に挑戦し続け、常に新たなスキルを吸収し、飛躍的な成長を促進させる経営を実践します。



CONTENTS

シンボルマーク



「はっぴ」のシンボルマークは、4枚のハート型の「はっぴ」で構成されています。ハート型でアニコムグループの理念である「命」を連想させるとともに、4枚の「はっぴ」をつなぐことで、分業協力する「命」の姿を表しています。色は、「命」をイメージする植物の芽の色、アニコムライトグリーンを配しています。

アニコム損保の経営方針

私たちアニコム損保は、ペット保険を通じて、
飼い主の皆様の「涙」を減らし、「笑顔」を生みだす
保険会社を目指します。

家族であるどうぶつがケガや病気をして喜ぶ飼い主はいません。つまり、ケガや病気で保険金をお受け取りになられることは、飼い主の皆様が『涙』を流していることを意味します。

アニコム損保では、保険金支払データの分析を通じて、どうぶつがケガをしない、病気にならないための情報の提供など、飼い主の皆様が『涙』を減らし、『笑顔』を生みだす保険会社を目指して、グループをあげてケガや病気の予防促進に取り組んでまいります。

会社概要
沿革
トップメッセージ
予防への取り組み
トピックス
社会貢献活動
代表的な経営指標

I 経営について

- 1 アニコムグループの概要
- 2 2023年度の事業概況
- 3 コーポレート・ガバナンスの状況
コーポレート・ガバナンス体制
反社会的勢力の排除
- 4 内部統制システム
- 5 コンプライアンス
コンプライアンス体制
勧誘方針
- 6 リスク管理
- 7 個人情報の保護
特定個人情報保護基本方針
- 8 利益相反取引の管理
利益相反管理基本方針
- 9 募集制度
- 10 お客様本位の業務運営方針
- 11 「お客様の声」への対応

II 業務について

- 1 保険のしくみ
- 2 約款
- 3 取扱商品
- 4 保険金のお支払い
- 5 各種サービス

III コーポレートデータ

- 1 株式の状況等
- 2 会社の組織
- 3 役員の状況
- 4 会計監査人の状況
- 5 従業員の状況等

IV 業績データ

- IV-1 主要な業務に関する事項
 - 1 直近の5事業年度における主要な業務の状況を示す指標
 - 2 業務の状況を示す指標
- IV-2 財産の状況
 - 1 計算書類
 - 2 保険業法に基づく債権
 - 3 単体ソルベンシー・マージン比率
 - 4 時価情報
 - 5 会計監査及び代表者による財務諸表に関する確認書

損害保険用語の解説

会社概要

(2024年7月1日現在)

社 名（ 英 文 社 名 ）	アニコム損害保険株式会社（Anicom Insurance, Inc.）
代 表 取 締 役	野田 真吾
設 立 年 月 日	2006年1月26日 （アニコム インシュアランス プランニング株式会社として設立）
開 業 日	2008年1月10日
本 社 所 在 地	〒160-8352 東京都新宿区西新宿8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー39階
電 話 番 号	03-5348-3777
資 本 金	6,550百万円
従 業 員 数	509名（2024年3月31日現在）
株 主	アニコム ホールディングス株式会社（100%）
事 業 内 容	損害保険業

沿革

2006年 1 月	アニコム インシュアランス プランニング株式会社設立
2007年10月	資本金を35億円とする（資本準備金6億1,400万円）
2007年12月	金融庁より損害保険業免許取得 アニコム損害保険株式会社へ商号変更
2008年 1 月	ペット保険「どうぶつ健保」販売開始 （4月1日以降保険責任開始契約）
2008年 4 月	ペット保険「どうぶつ健保」補償開始
2009年 3 月	12億円増資し、資本金41億円に（資本準備金12億1,400万円）
2010年 3 月	親会社のアニコム ホールディングス株式会社が 東京証券取引所マザーズ市場へ上場 5億円増資し、資本金43億5,000万円に（資本準備金14億6,400万円）
2012年 3 月	7億円増資し、資本金47億円に（資本準備金18億1,400万円）
2013年 9 月	7億円増資し、資本金50億5,000万円に（資本準備金21億6,400万円）
2014年 6 月	アニコム ホールディングス株式会社が 東京証券取引所市場第一部へ市場変更
2015年10月	本社を新宿区西新宿へ移転
2018年10月	30億円増資し、資本金65億5,000万円に（資本準備金36億6,400万円）
2022年 4 月	アニコム ホールディングス株式会社が東証の市場区分の 見直しにより、プライム市場に移行

トップメッセージ

日頃より格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は「涙を減らし、笑顔を生みだす保険会社」を経営方針に掲げ、ペット保険の普及に努めております。おかげさまで、2024年3月末時点の保有契約は119万3,560件、対応動物病院様は6,879病院、保険金の年間お支払件数は約440万件となりました。

弊社を支えてくださるご契約者、動物病院の皆さま、代理店の皆さまはじめすべての方々に心より御礼申し上げます。

2023年度は、ペット保険業界が大きく変化する中で、国内生保・損保との提携を拡大しながら、ペット保険の普及に取り組んでまいりました。入ると健康になる「予防型保険会社」の取組みもさらに定着し、腸内フローラを測定する付帯サービス「どうぶつ健活」の申込件数は年間で22万件を超えております。

また、人とどうぶつの共生社会の実現に向けた取組みも継続し、2022年度にオープンした当社が運営を支援する保護動物シェルター「ani TERRACE」等において、2024年3月までに74頭の犬・猫を新しい飼い主さまへ譲渡いたしました。年初に発生した令和6年能登半島地震で被災した飼い主さまとどうぶつたちを支援するため、アニコムグループとして募金やペットの一時預かり、支援物資の提供などに取り組んでまいりました。

その他、アニコムグループ全体では、膨大な保険データによる口腔内環境と健康の関係に対する調査・分析、それらのデータをもとにした口腔ケア商品の開発のほか、腸内環境の改善を目指した商品の開発など、どうぶつの健康と幸福を支えるさまざまな研究や事業サービスを行ってまいりました。

今後も、私たちの「家族」であるどうぶつの安心を支えるペット保険を「当たり前」の存在にすべく、ペット保険の普及と進化に努めながら、どうぶつと飼い主さまが、安心して健康に暮らせる社会作りを支えるために、アニコムグループの役職員一丸となって尽力してまいります。

引き続き、より一層のご支援・ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2024年7月

アニコム損害保険株式会社
代表取締役

野田 真 吾



予防への取組み

■犬・猫の熱中症週間予報の配信

当社では、飼い主の適切な対策により「防げる病気」である熱中症を予防するため、2013年から「犬の熱中症週間予報」を開始し、2022年6月からは、「猫の熱中症週間予報」も配信しています。

犬と猫の「熱中症週間予報」は、株式会社ライフビジネスウェザーと当社が独自に開発した熱中症指標をもとに作成しています。犬と猫それぞれの体高や代謝などを考慮した指標と1週間分の気象予報から、全国主要10都市の熱中症注意レベルを「やや注意」「注意」「警戒」「厳重警戒」の4段階に分け、それぞれ犬と猫のイラストで表示します。あわせて保険金請求データやアンケート結果から熱中症が発生する状況などを分析して公開し、予防啓発に努めています。

今後も、熱中症を含めたさまざまな病気に対して飼い主さまの知識向上を図り、どうぶつたちが健康に暮らせるよう努めてまいります。



■『家庭どうぶつ白書 2023』発行

アニコムグループでは2010年から、当社のペット保険「どうぶつ健保」の保険金支払い実績、独自に実施したアンケート調査の結果など、家庭どうぶつに関わるさまざまなデータを「家庭どうぶつ白書」として1冊にまとめ、毎年発行しています。

2023年12月19日に発行した『家庭どうぶつ白書2023』では、犬・猫の平均寿命を調査し、犬は14.2歳、猫は14.7歳と、当社が調査を開始した2008年以降、過去最長となりました。また、シニア期の犬・猫に多い疾患や、死因・死亡率に関するデータなど、長寿化が進むどうぶつたちの飼い主さまに知っていただきたい情報を掲載しています。

表紙の犬や猫のモデルはSNSを通じて公募し、多くの方々にどうぶつのケガや病気、その予防に関する情報に興味を持っていただけるよう努めています。引き続き、皆さまのお役に立つ情報を提供してまいります。



■口腔内環境と健康の関係に関する調査・研究

当社の保険金請求データによると、歯周病に罹患している犬は、健康な犬に比べて、翌年すべての傷病の罹患率が1.4倍に、猫も健康な群に比べると、翌年すべての傷病の罹患率が2.7倍になることがわかっており、口腔内環境は全身の健康に影響していると考えられます。

当社およびアニコム先進医療研究所株式会社は、大阪大学、アース製薬とペットの歯周病予防などを目的に共同研究を行うほか、その研究成果を活用したペット用歯磨きジェル『CRYSTAL JOY』を、2024年1月18日にアニコム パフェ株式会社から発売いたしました。



■世界最大規模、犬の腸内細菌叢データ約17万件を分析

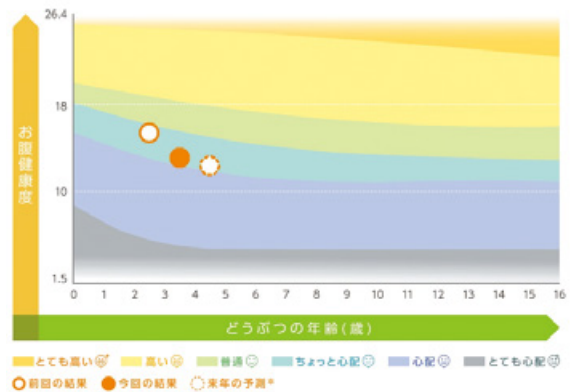
アニコムグループでは、2016年からペットの腸内細菌と健康の関係に関する調査・研究を行っています。

約17万件の犬の腸内細菌叢の検査結果と約64万件の保険金支払データを分析した結果、犬の健康に悪玉菌や善玉菌が大きく関わっていることが判明しました。

この分析結果を踏まえ、腸内における悪玉菌や善玉菌の存在やその比率をスコア化し、健康状態と紐づけた指標「お腹健康度」をお客様にご提供し、ペットの健康度の目安としてご活用いただいています。

■お腹健康度

今後の健康状態アップを目指していただくための指標です。「腸内にどんな善玉菌・悪玉菌がどのような比率で存在するか」を保険金支払いデータと照らし合わせて分析し、アニコムグループで算出しています。



現
状

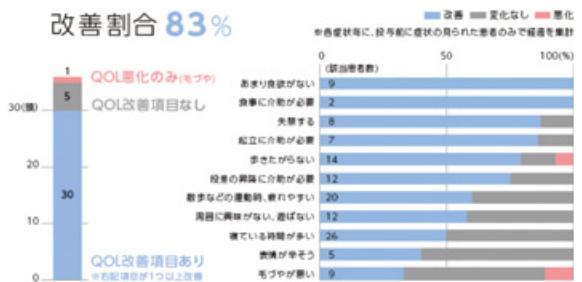
■高齢犬への幹細胞投与によるQOLの改善、診療費の抑制効果を確認

アニコム先進医療研究所株式会社との研究を通じ、幹細胞投与を行った犬において、Quality of Life (QOL) の改善と診療費の抑制効果が見られることが明らかになりました。

9歳以上の犬36頭に幹細胞を投与したところ、8割（30頭）の犬において、食事や活動性に関して改善が見られました。また、11歳以上の12頭に投与したところ、10頭で診療費の低減が確認されました。

これらの結果は、ペットの老化に伴うさまざまな不調に対して為す術がなかったところ、幹細胞の投与により、健康に暮らす時間を延伸することができる可能性を示しています。

改善割合 83%



トピックス

■フコク生命でアニコム損保の「どうぶつ健保」の取扱いを開始

2023年12月に、富国生命保険相互会社と損害保険販売に係る委託契約を締結し、フコク生命は当社の代理店としてペット保険「どうぶつ健保ふぁみりい」「どうぶつ健保ぶち」「どうぶつ健保しにあ」の取扱いを開始いたしました。フコク生命の販売チャネルを通じて、より多くの飼い主さまにペット保険を提供することが可能となり、これまで当社との接点が少なかった方にアプローチすることで、ペット保険の更なる普及が期待されます。



■オリコン顧客満足度®調査 ペット保険2項目で第1位

「2023年 オリコン顧客満足度®調査」のペット保険ランキングにおいて、「保険金・給付金」と「窓口精算」部門で第1位を受賞。「保険金・給付金」の受賞は7年連続となりました。

当社が創業当初からご用意している「どうぶつ健康保険証」、窓口精算制度をご評価いただいたものと捉えており、今後も「どうぶつ健康保険証」を“家族の証”として多くのご家族にお届けするとともに、更なるサービスの向上を目指してまいります。



■「防災手帳」をリニューアル

9月1日「防災の日」を迎えるにあたり、アニコムオリジナルの「防災手帳」のリニューアルを行いました。

防災手帳は災害時に同行避難・同伴避難が叶わない場合や、はぐれてしまった時に備えて、ペットのプロフィールや健康状態を記せるようにしたもので、2018年からオンラインで無料公開しています。

今回、より見やすく使いやすいものになるよう、当社がお引受けしている15品種すべてについて、内容・デザインの両面でリニューアルしました。



アニコムオリジナル防災手帳：

<https://www.anicom-sompo.co.jp/bousai/minna/359/>

アニコムグループでは、ペットが持つ「無償の愛」により「心の発電力」を高めてくれる力を通じて、豊かな地球環境の維持と全生命体の幸せを増進させることで、社会的課題の解決に貢献し、更なる企業価値向上と持続的成長を果たしていくことが存在価値であると認識し、グループの理念体系を定めています。この理念体系に基づき、サステナビリティ基本方針を定め、持続可能な社会に向けた取組みを推進しています。

■どうぶつへの貢献

■PAWプロジェクト

アニコムグループでは、2012年度からグループ会社横断プロジェクト「PAW（Project of Animal Welfare）」を立ち上げ、動物愛護・福祉に資する活動を行っています。

動物愛護週間にあわせて、埼玉県と共同で行う啓発活動は2023年度に第10回をむかえJR浦和駅において「大好きな君がずっと幸せでいられますように。～私たちが備えるべきこと～」をテーマにノベルティを配布しました。



■殺処分ゼロ

アニコム先進医療研究所株式会社が運営する三重県多気町の「ani TERRACE」では、飼い主がいない犬・猫と新しい飼い主をつなげる活動を行っています。そのほか、動物愛護団体等が主催する譲渡会に、北海道支店、中部支店が会場を提供するなどの協力をし、2023年度は、犬と猫74頭に新たな家族が見つかりました。



■人への支援

■能登半島地震における支援

2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震で被災したペットと飼い主の皆さまを支援するための活動を継続しています。

2024年1月10日から、『能登半島地震におけるペット救援募金』プロジェクトを実施し、お寄せいただいた寄付金と、当社グループからの200万円、また当社グループ社員からの寄付とあわせて、24,955,224円を2024年3月8日に『令和6年能登半島地震動物対策本部』へ寄付したほか、迷子捜索支援サービスの提供、被災された方のペットの一時預かり、ケアグルーミング支援のためのどうぶつ用災害診療車の貸出し、ペットフードや用品等の支援物資送付などを行っています。



■モロッコ大地震・リビア大洪水におけるどうぶつ救援募金

2023年9月のモロッコ大地震およびリビア大洪水で被災したペットと飼い主の皆さまを支援するため、『モロッコ大地震・リビア大洪水におけるどうぶつ救援募金』プロジェクトを実施いたしました。

多くの皆さまから募金いただいた寄付金と、アニコムグループからの200万円、またアニコム社員からの寄付とあわせて、合計3,845,585円を2023年11月7日にIFAW（国際動物福祉基金）へ寄付いたしました。



社会貢献活動

■ウクライナ避難者の支援

戦禍によりウクライナから日本に避難してきた飼い主の方が、帰国または自立して日本で生活ができるようになるまでの間、ペットにかかる必要な医療費を全額支援する取組みを継続しています。

2023年の5月、10月にそれぞれ避難者の方とペットの猫が当社グループのどうぶつ病院で診療を受け、その診療費の支援を行いました。



■災害救助犬の育成への協賛

当社は、一般社団法人ジャパンケネルクラブ（JKC）が行っている災害救助犬（地震などの災害現場で、瓦礫に覆われた被災者を捜索し、自衛隊、消防、警察等による救助部隊をサポートする犬）の育成活動に協賛しています。

訓練所で訓練を受け、認定試験に合格した犬だけがJKC災害救助犬として認定を受け、被災現場等へ出動することができます。2023年の認定試験は、84頭が受験し34頭が合格しました。また、毎年9月に開催される災害救助犬競技大会には、30頭が参加し、服従や捜索の技能を競いました。

2024年4月1日時点で、出動が可能な認定犬は125頭です。



■世界自然保護基金（WWF）との取組み

公益財団法人世界自然保護基金ジャパン（WWFジャパン）から講師を招き、野生動物のペット利用に関する現状や課題、企業責任に関する社内セミナーを開催しました。今後も、ペットだけでなく、野生動物を取り巻く環境の改善に資する取組みができるよう努めてまいります。



当社独自の取組みのほか、一般社団法人日本損害保険協会の一員として、事故、災害および犯罪の防止・軽減にむけて、さまざまな社会貢献活動に取組んでいます。同協会での取組みについては、ウェブサイトをご覧ください。

■事故・災害・犯罪の防止・軽減への取組み

<https://www.sonpo.or.jp/about/efforts/reduction/index.html>

■環境問題への取組み

<https://www.sonpo.or.jp/about/efforts/eco/index.html>

代表的な経営指標

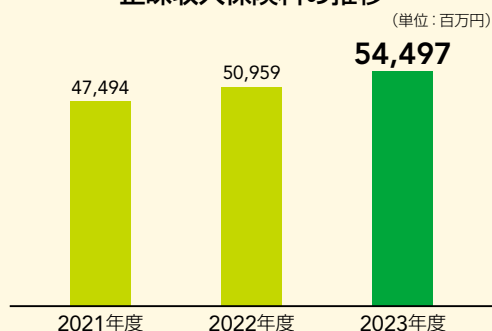
区 分	2021年度	2022年度	2023年度
正味収入保険料	47,494百万円	50,959百万円	54,497百万円
正味損害率	56.1%	57.0%	58.0%
正味事業費率	35.7%	34.1%	32.5%
コンバインド・レシオ	91.8%	91.1%	90.5%
保険引受利益	2,247百万円	2,967百万円	3,502百万円
経常利益	3,288百万円	3,632百万円	4,069百万円
当期純利益	2,241百万円	2,515百万円	2,864百万円
単体ソルベンシー・マージン比率	393.5%	373.1%	333.7%
総資産額	46,359百万円	48,330百万円	49,786百万円
純資産額	20,455百万円	20,738百万円	20,100百万円
その他有価証券評価差額	△342百万円	△1,555百万円	△1,248百万円
不良債権の状況	—	—	—

現
状

正味収入保険料（対前期比）

544億97百万円（106.9%）

正味収入保険料の推移



■正味収入保険料

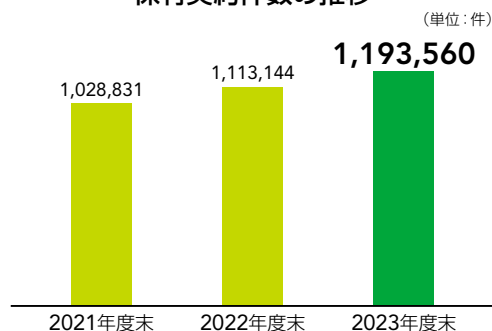
ご契約者から受領した保険料に、保険金支払い負担の平均化・分散化を図るための他の保険会社との再保険契約のやり取りを加減した金額であり、売上規模を示す指標です。

当社では再保険契約がないため、全額がご契約者から受領した保険料となっています。

■関連する指標－保有契約件数

ペット保険の保有契約件数は、2024年3月末で前年比8万件プラスの119.3万件となりました。

保有契約件数の推移



■保有契約件数

算出日時点で保険契約が有効に成立している契約の件数です。

代表的な経営指標

正味損害率

58.0%

正味損害率

(単位：%)

56.1 57.0 **58.0**

2021年度 2022年度 2023年度

■正味損害率

正味収入保険料に対する正味支払保険金と損害調査費との合計額の割合のことで、保険会社の経営分析や保険料率の算出に用いられるものです。

正味事業費率

32.5%

正味事業費率

(単位：%)

35.7 34.1 **32.5**

2021年度 2022年度 2023年度

■正味事業費率

正味収入保険料に対する保険事業上の経費の割合のことで、正味損害率と同様に、保険会社の経営分析や保険料率の算出に用いられるものです。この経費には、営業費及び一般管理費のうち、保険引受に係る金額及び諸手数料が含まれます。

コンバインド・レシオ

90.5%

コンバインド・レシオ

(単位：%)

91.8 91.1 **90.5**

2021年度 2022年度 2023年度

■コンバインド・レシオ

正味損害率と正味事業費率の合算率で、損害保険会社の保険本業での収益力を示す指標です。一般的にこの指標が低いほど収益性が高いといわれています。

保険引受利益（対前期比）

35億2百万円（118.0%）

保険引受利益

(単位：百万円)

2,247 2,967 **3,502**

2021年度 2022年度 2023年度

■保険引受利益

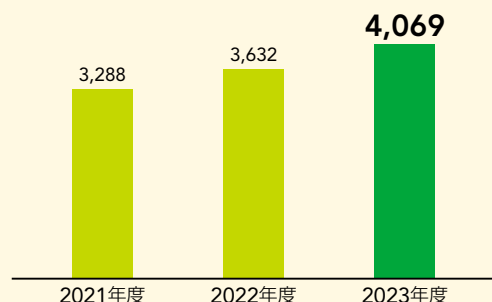
正味収入保険料等の保険引受収益から、保険金・損害調査費等の保険引受費用と保険引受に係る営業費及び一般管理費を控除し、その他収支を加減したもので、保険本業での最終的な損益を示すものです。

経常利益（対前期比）

40億69百万円（112.0%）

経常利益

（単位：百万円）



■経常利益

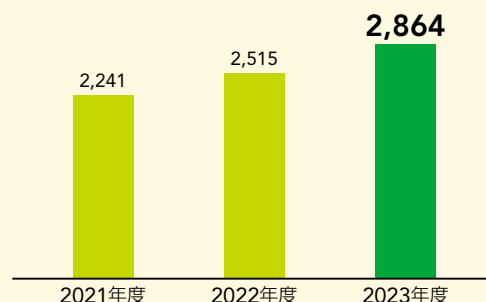
正味収入保険料、利息及び配当金収入、有価証券売却益等の経常収益から、正味支払保険金、有価証券評価損、営業費及び一般管理費等の経常費用を差し引いたもので、経常的に発生する取引から生じた損益を示すものです。

当期純利益（対前期比）

28億64百万円（113.9%）

当期純利益

（単位：百万円）



■当期純利益

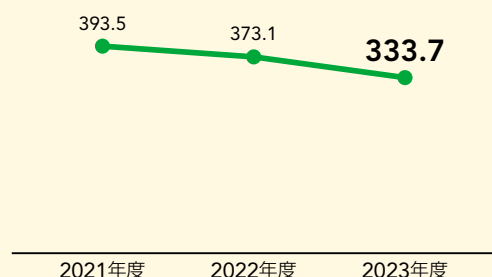
左記の経常利益に固定資産処分損益や価格変動準備金繰入額等の特別損益、法人税及び住民税、法人税等調整額を加減したもので、事業年度に発生した全取引によって生じた損益を示すものです。

単体ソルベンシー・マージン比率

333.7%

単体ソルベンシー・マージン比率

（単位：%）



■単体ソルベンシー・マージン比率

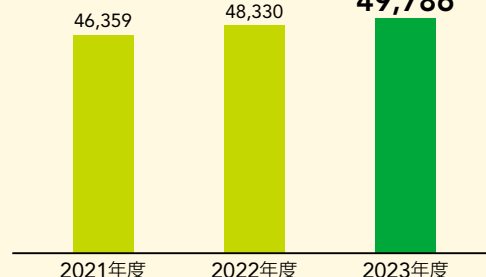
巨大災害の発生や、保有資産の大幅な価格下落等、通常の予測を超えて発生し得る危険に対する、資本金・準備金等の支払余力の割合を示す指標です。行政当局が保険会社を監督する際に、経営の健全性を判断するために活用されており、この数値が200%以上であれば「保険金等の支払能力の充実の状況が適当である」とされています。

総資産額

497億86百万円

総資産額

（単位：百万円）



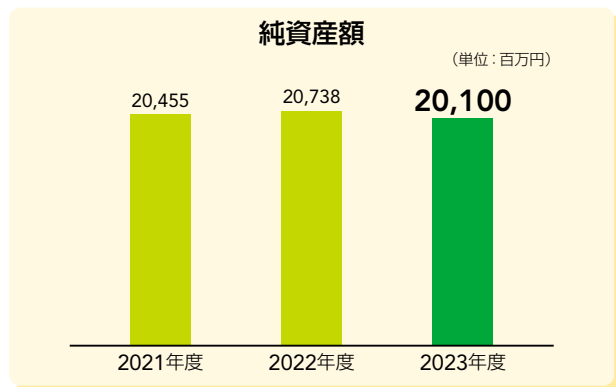
■総資産額

保険会社が保有する資産の総額で、具体的には貸借対照表上の「資産の部合計」です。保険会社の資産規模を示すものです。

代表的な経営指標

純資産額

201億00百万円

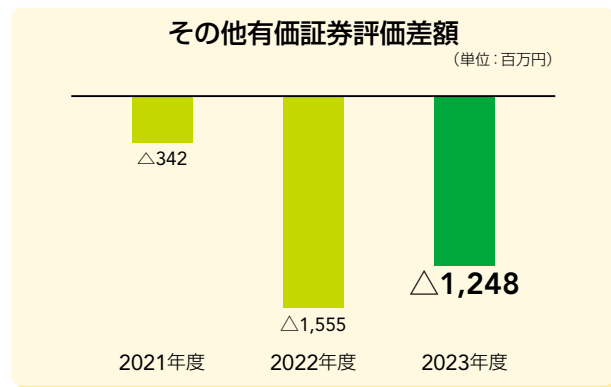


■純資産額

総資産額から、責任準備金等の負債額を控除したもので、具体的には貸借対照表上の「純資産の部合計」です。保険会社の担保力を示すものです。

その他有価証券評価差額

△1,248百万円



■その他有価証券評価差額

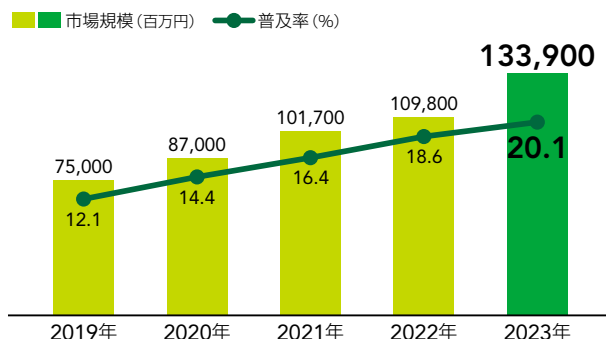
保有有価証券等に占める「その他有価証券」の時価評価後の金額と時価評価前の金額の差額を指します。財務諸表上は、この評価差額から税金相当額を控除した金額を、貸借対照表の純資産の部に「その他有価証券評価差額金」として計上しています。

■関連する指標ーペット保険普及率

ペット保険を扱う会社は計18社あり、普及率は、20.1%と順調に伸長しています。一方、ペット保険の歴史が長い英国での普及率は、25%を超えるとされており、日本においても、英国並みの普及率を目指すことができると考えられることから、今後も成長性が見込まれます。

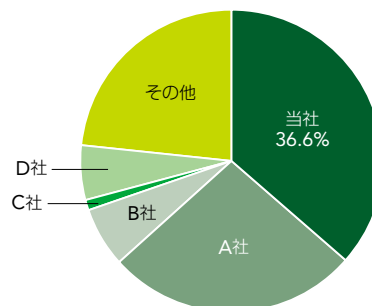
当社は、人の健康保険制度と同様に、対応動物病院で利用できる「窓口精算システム」や、お気に入りのペットの写真がプリントされた「どうぶつ健康保険証」等にご支持をいただき、ペット保険シェアNo.1を維持し続けています。

ペット保険市場規模の推移 (※)



※株式会社富士経済「2024年 ペット関連市場マーケティング総覧」調査
普及率 ペットフード協会令和5年全国犬猫飼育実態調査より算出

2023年マーケットシェア (※)



<保有契約件数ベース>